

武蔵野市第四期長期計画調整計画

# 行・財政分野市民会議

## 第6回

平成18年12月3日（日）

武蔵野市役所6階 601会議室

午後 2 時 開会

## 1 開 会

○菊池 皆さん、こんにちは。あと数名、これからいらっしゃるんだと思いますが、定刻になりましたので、始めさせていただきたいと思います。

きょうは日曜日の、しかもふだんでしたらくつろぐ時間であるはずなんですけれども、大変な時間にお集まりいただき、ありがとうございます。

## 2 議 事

○菊池 早速、中身に入りたいと思います。お手元に資料が配布されておりますが、市の方から、「第四期長期計画実施状況」という資料が提出されております。これについて、まず初めに事務当局の方から説明していただこうと思います。よろしくお願いします。

○山本企画調整課長 それでは、お手元に、本日お配りいたしました A 3 の資料「第四期長期計画実施状況」ということで、これを説明しますと時間が長くなってしまいますので、簡単に見方だけご説明させていただきたいと思います。

これにつきましては、こちらの基本構想の一番後ろの 106 ページからございます付表に書いてございます事業が今どのくらい進んでいるかというものを、簡単に記載したものでございます。本当は市民会議が始まる以前にこれをつくってお配りしたかったんですが、数が多岐にわたってしまったということもございまして、10 月 1 日現在ということ、実際配るのは 12 月になってしまいましたが、このような形で、遅れたことをまずお詫びしたいと思います。

見方といたしましては、ここに書いてあるそれぞれの項目に対応してこの表になってございまして、表紙をめくっていただきますと、それぞれその表に実施状況の区分として◎であるとか○であるとか△であるとか、そういう印がついてございますが、その印の例が、1 ページ目の表紙のすぐ裏に書いてございます。

我々の分野でございます行・財政の分野につきましては、59/68 と書いてある後ろの方でございまして、こちらの方に、付表のピンク色で書いてある各事業ごとに、どのように現状が進んでいるかということで記載してあるものでございます。

簡単に一番最初のものだけ申し上げますと、基本構想のこの表の基本施策のところを書いてございます一番大きな柱として、1 の「市民パートナーシップの積極的推進」という

文言が表の一番上にございまして、その下に、この表でいきますと「施策」と書いてございます中柱、「(1) 地域の力を活かした事業の推進」という言葉が書いてございます。その中には、ピンク色で書いてあります、一番小さな区分になる「事業」の区分のところでございますが、「市の事業における市民、NPO等との連携拡大」、これがどういう状況で進んでいるか、これについては、対象は大体全課にわたるものでございますけれども、ここで回答が出てきておるのが、交流事業課と環境政策課というところから、現在こういう状況で進んでいる。そして、表の一番右端は「今後の予定」ということでございますが、今後このことについてどのように考えているかということが記載してある表でございます。

行・財政の分野だけにつきましても10ページ近くにわたりますので、これは本日お持ち帰りいただいて、何か質問点等もしございましたら、そちらの方につきましてはメールかFAXで事務局の方にお送りいただければ、それにつきましては次回お答えするような形をとらせていただきたいと思いますと考えてございますので、本日のところはこれをお持ち帰りいただいて、ご参照いただければと思っております。

説明は以上でございます。

○菊池 前回、私たち、いろいろなご提案をしていただいたわけですが、こうした長期計画の実施状況をつぶさに見ることで、自分が疑問に思っている部分がここまで進んでいるんだとか、どういう状況だとか、詳しく載っておるようですので、これを今後の議論のご参考にしていただければよろしいかと思えます。

これに関して、島田さんですか、何か。

○島田 非常にささいなことなんですけれども、今ご説明いただいたところ、「地域の力を活かした事業の推進」というところがありますね。主管課が全課と書いてあって、ここに課で書いてあるのは交流事業課と環境政策課ですか。ほかのところからは後から出てくると理解をした方がいいんですか。ここだけがこれをやるということの理解なんですか。

○山本企画調整課長 一応今の段階で取りまとめたものでございまして、とりあえずここまでというふうにご理解いただいて、この追加についてはまたさらに、策定委員会が始まるころまでにまた追加ということできちっとしていきたいと思っておりますが、現在、各課に振った段階では、こういう回答ということでございます。

○菊池 よろしいでしょうか。ありがとうございました。それでは、資料についてはそのようなお取り扱い、ご参考にしていただきたいと思います。

早速ですが、次に、きょうの全体の会議の進め方といましようか、司会役としてご提

案申し上げたいんですけれども、澤田さん、それから田中さんもお手伝いいただいたということで、大変な作業をいただきまして、お手元のような資料ができ上がりました。澤田さん、田中さん、本当にありがとうございました。感謝申し上げます。

それで、このような形で提案されたわけですけれども、これを踏まえて、恐らく皆さんの中には、もうちょっと提案したいことがあるんだという方が結構いらっしゃるんじゃないかと思うんです。そういうことで、前半、皆さんが手持ちどれくらいのご提案をお持ちかにもよるんですけれども、最初にさらなる追加提案を、ある方にさせていただく。これが30分で終わるか、もっと続くか、それは皆さんの持ちごま次第なんですけれども、そういったことをまず行ってみたらどうなのかなということでございます。大体それで、長く見て前半の1時間くらいとればよろしいかなという目算をしております。

残りの1時間で、それをまたこういう一覧表に加えていただく作業を次回に向けて、また澤田さんをお願いしなければいけないんですけれども、それと並行した形で、お手元の、きょう我々が目にできるこれをたたき台にしまして、どう整理していったらよいのかというご議論を重ねてみたらどうなのかなと考えています。

それから、もうちょっと時間を長く考えましたときに、12月に、実はきょうを含めて3回ございます。最終案の取りまとめという逆算をしていったときに、12月いっぱいぐらいはこの議論に十分時間をかける必要があるんじゃないか。ですから、12月いっぱいこれをどう整理していくかということを中心に、議論があろうかと思っておりますので、そういう段取りで行いたいと思います。そして1月になりましたら、いよいよ取りまとめの段階に入る、こんなような段取りを今のところ考えたらどうなんでしょうと私個人は思っているんですが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○糸井 先生ご自身が、行・財政分科会として、分析の仕方について、私ならこういう方法があるみたいな案というのはないんでしょうか。

○菊池 それをこれからお話しさせていただきます。

○糸井 もしそれがあれば、その体系的な資料を皆さんにお配りしていただくとありがたいと思っています。

○菊池 きょう、実は、今お手元にある、澤田さん、田中さんがおつくりいただいたこの表なんですけど、前回、この策定に当たって私も参加しますよ、ご協力しますよと申し上げたんですが、澤田さん、田中さんにこのように立派なものをつくっていただきましたので、この段階で私があればこれ口を出さない方がよろしいのではないかということで、もうお任

せいたしました。

きょう、これでまたぐるっと回った議論をしていただきますけれども、その議論が終わった後で、行・財政といいたいでしょうか、おこがましい話ですが、専門家の立場から、今後この議論を整理していくに当たっては、こんなようなとらえ方でやっていったらどうでしょうか、ちょっとコメントしてみよう、その資料も用意してございますので、その段階で私もコメント申し上げさせていただこうかと思っておりますが、いかがでしょうか。――では、そういうことで、澤田さんの方から、取りまとめに当たってのコメントをお願いしたいと思います。

○澤田 まず、この間まとめた資料については、手を加えていません。ただそれを分類した。というのは、私が勝手に意味を解釈して変えてしまうと混乱が生じるのかなと思いましたが、書いた方は、書いた自分の責任でやっていただきたい。

とはいえ、分類しなければならないので、幾つか分類をつくりましたけれども、その中で、右側の大きな塊は、一般的なのというか、特に問題のないというか、既に存在しているものだと考えますけれども、それに入らない、もっと大きなものがあるということで、それを左側にまとめてあります。非常に難しいんですけども、何といいますか、全体にかかわるような大きなと言いますか、法律とかで言うと憲法みたいな感じでしょうかね、そういうニュアンスでとらえていただくと、細かなところには分け切れない、もっと大きな次元のものということで、これはどうしてもここにしか入れられないんじゃないかなということ。その中で、「市民の意思決定への参加」という形で1つと、「政策理念」という形で1つ、「チェック機能」という形で、大きく3つに分類している。これが多分特徴的なことだと思うんです。これは各論ではなくて、各論が全体に対してかかわってくるというふうに理解しています。

このような分類になりましたが、勝手な解釈というか、これだけの短い文で、この間の皆さんから聞いた話を全部理解するわけにはいきませんので、私は勝手にやりましたので、それは間違いがいっぱい入っていると思いますので、そこはやっぱり、ここは違うというふうに訂正していただかないといけないのかなと思っております。

田中さん、よろしいですか。

○田中 ほぼ同様なんですけど、今回、もう一度それぞれの案を出してみようというお話だったんですけど、この場を借りてというか、ここに分類されている項目に補足などあるようでしたら、していただくのがいいかなと思っております。

○菊池 そうですね。ありがとうございました。

それでは、今、澤田さん、田中さんのお話があったように、短い言葉で表現していますので、提案されたご本人自身が、自分の言っていることとちょっとずれているので、こう訂正してほしいというような部分もおありでしょうし、全く新しいご提案もあろうかと思えます。それはいろいろ取りまぜて結構だと思うので、前回同様、右回りでよろしいでしょうか、時計回りで。そういう形で、パスの方はパスでよろしいかと思えます。

○島田 その前に。意見を出すときに、例えば前々回ですか、行政改革度比較という、日経がやっているの、武蔵野市が七十何位で三鷹が一番だというのがありましたね。そのときに使っている項目というのを出していただきましたね。これも1つずつ挙げていった方がよろしいんですか、この中からピックアップして。改革度がどうだというのをどうやって見ていくかという1つの方法だと思うんですね。それは前に一度出していただいているんだから、省いていいのか。いや、これも必要だと思うものを出せというのか。どちらにしたらいいかなということ。

○菊池 あれ、全項目を1個1個挙げていくと大変ですから。ですから、あれはどのようなタイトルで言ったらいいんでしょう。「行財政改革（日経のアンケート項目の何とか）」というような、そんなご提案の方が、あるいはよろしいのかもしれないね。

○島田 それは入っているじゃなくて、やはり出していくということですかね。

○菊池 そうですね、出していただくとうよろしいんじゃないでしょうか。ただ、ちょっと取り扱いが面倒ですね。あれは行・財政ばかりじゃなくて、いろいろ入っていますからね。

○糸井 それはそれで、項目として別枠で、これと同じようなものとしてもう出ているんだから、そうしたらいいんじゃないですか。それを改めて1つ1つ言ったってばからしいでしょう。

○島田 ですから、皆さんがそれで、これは入っているんだというご認識であれば、それでいいかなと思うんです。

○糸井 それで共通認識があればいいんじゃないですか。

○菊池 よろしいでしょうか、島田さん。

○島田 皆さんがそういう扱いだということによろしければ。

○菊池 よろしいでしょうか。それは当然ここに入っているということで進めさせていただきます。

それでは、糸井さんの方から、ご提案等ございましたら。

○糸井 1つずつですか、全部ですか。この間のはものすごく効率が悪かったですよ。だから、この間の帰りに皆さん、書いているんだから、それを一通りずらっと出せば、一巡で終わっちゃうし、またこれに出るんだからね。またずっと見て、新しいのがあれば、それに出していくという方が効率的じゃないでしょうか。

ブレインストーミングというやり方は、効率というものを重視しているやり方なんです。それと、ストーミングといわれているように、集中豪雨のように一遍にわっとアイデアを出すというのが趣旨ですから、1つずつ見ながら考えてしゃべるというやり方ではないんですよ、本来。

○菊池 前回、それから今これからやろうとしていますのは、それぞれお持ちのご提案をしていただくということですから、前回行いましたのは、諸点を出していただく。今後、それについて、個別なのか、ある程度まとめた上で集中審議をしていく、これが本当の意味のブレインストーミングですね。ある具体的な大きなテーマがあって、それについていろんな角度から意見を述べ合うということで、今のところはそれぞれご提案を出していただくということで来ていますので。

その方法なんですけれども、たくさんお持ちの方もおれば、いろいろあろうかと思うんです。今の糸井さんのご意見だと、1人1人全部述べてしまおうというご提案なんですけど、時間内にそれが済むなら問題ないと思うんですけれども、そういうことで前回は1つずつということで回したわけですが、どうでしょうか。

○安田 提案だけを先にやるんですか。これの修正もありますよね。

○菊池 それは後に。前回に引き続いて、なおかつ提案があれば出していただく。

○安田 提案だけだったら、先に回しちゃったらどうですか。

○菊池 1つずつ、それとも全体？

○安田 全体。もうこれだけ出ているんだから。どうせ後で絞るんなら、どんどん捨てる方が多くなるだけです。修正は後で。

○菊池 そうですね。それでは、よろしいでしょうか、そんな形で。聞いている側にも、記録を取る関係上からも、5つ提案があります、あるいは3つありますと、最初にそういついていただいて、それを1つ1つ短い言葉で述べていただく。そんなふうにすると、まず時間内に回ろうかと思えますので。

それでは、糸井さん、お願いします。

○糸井 41、提案があります。ざっと言いますから、どんどん打ってください。

市職員の2割削減化。教育委員会の大改革化。小中高一貫教育制度の導入。総合体育館の図書室の廃止。雨水浸透による水涵養化。PFIの徹底活用。市職員の民間企業への研修。景観条例の設定。フィフティ・フィフティ制度の導入。NPO団体の徹底活用。

○菊池 とても打てないですね。糸井さん、これ、後でコピーしてお渡しした方がいいと思います。とりあえず全体、ほかの皆さんは耳で聞くだけでも随分違ってしまうから、今のようなスピードでおっしゃってみてください。

○糸井 シルバー作業所の3カ所分散化。市役所版エコマネー制度の導入。コミセンの高度活用化。市政センターの高度活用化。水涵養ファンドの設置。緑ファンドの設置。シビルマキシマムの市政化。24時間市政センターの設置。24時間郵便局の設置。市庁舎収益事業化。防災兼用型ビオトープの開発。京都議定書6%完全実施化。ごみ減量化。市民優遇制度の導入。武蔵野公会堂の駐輪場設置。市のすぐやる課の設置。市民活動拠点の3カ所設置。武蔵野ブランド版野菜の開発。生産緑地、農地の増設。武蔵野と三鷹の合併の検討。武蔵野、三鷹、小金井の合併の検討。武蔵野と杉並の合併の検討。電話番号の都内番号化。幼・高齢者施設の並存化。ムーブスの深夜デマンドバス化。有料施設の早朝利活用化。有料施設の深夜利活用化。屋上ビオトープの設置。壁面緑化の推進。職員への企画提案義務化。市建物の収益事業化。

以上。

○菊池 非常に多彩な、多岐にわたるご提案だったと思いますが、ほかの皆さんにも関連する部分があるかと思っています。

○内山 パスです。

○小美濃 学校の給食の問題なんですけれども、今、給食費の未払いというのが結構、1つの学校で1000万くらいあるというふう聞いています。どうしてこうなっちゃったかというと、平成の初めごろから振込制度になった。だから、それを廃止して、従来、その前にやっていたように、学校で集めるようなシステムに変えていけば、かなり収入は増収になると思います。給食費の徴収制度の変更です。それをやらないと、今度、中学校でも同じような問題が出てきちゃって、大変なことになると思うので。

○小池 別に新しい提案というわけではないんですが、せんだって出されたブレインストーミングの、皆さんのご提案をずっと検証していきますと、自治基本条例を早急につくるという形で、それを整備すれば、その大部分がある程度解決していくんじゃないかということに自分でぶち当たりましたので、重ねてその点について検討していただきたいという



ことです。

○小島 ブレーンストーミングの提案としては、今の段階では、前回述べたことで私は十分だと思いますので、ありません。

ただ、ちょっと先生に、私個人としてお願いしたいと思うのは、もう3カ月経っています。来年3月までにこのグループから策定案を、しっかりしたものを出さなきゃ恥ずかしいと思うんですが、私の考えでは、大項目、大目標をまず議論の、先生にこれから誘導していただくようなんですが、それをぜひきょうからもう始めていただきたいと思います。後でやっていただくということですが、これを一番期待したいんです。何を本当に大項目、大目標として選んでいくかということ、まずそこから下へおりていかないと、すべて細かいことまでここで何十時間もやっても、これはブレーンストーミングで、あるところで打ち切りませんと、大変な細かいことまで。細かいのは、大目標が出てから、下へおりていく中から出てくる問題であるし、360度全部はできないと思うんですね。

時間の制約というものが有りますから、私はぜひとも個人としてお願いしたいのは、もうそろそろ、一体この中のどこからまずは始めようかということ、これ、みんなで議論しても、これまたまとまらないと思うんです、率直に申し上げて。やはり先生にある程度まとめていただいて、アドバイスいただいて、それに皆さんがどう賛同するかというくらいの議論でやっていって、毎日毎日少しずつその辺をはっきりしていただきたいというのが私のお願いでございます。

○糸井 そういう意見をここで言うてはまずいですよ。

○菊池 それはちょっと待ってください。今のご意見、後で私のコメントを申し上げると申し上げましたけれども、そのときに申し上げさせていただきたいと思います。

次の方、お願いします。

○酒井 後ほどということで、パスです。

○澤田 特にございませぬ。

○島田 まず、今のところで1つだけ申し上げたかったのが有ります。計画をちゃんと管理方法にのっかって運用していただきたい、すべきだ。PDCAをちゃんと回しましょうという意味で、先ほどの質問もそういうことでしました。回っているんですかという意味で。それをちゃんとやっていただきたい。

○須藤 今、小島さんが申し上げたようなことで、それに枝葉がいずれにしてもついていくだろうと。それで解決するという方法でよろしいと思います。

○高木 追加項目としてはございません。

○高橋 食育教育をさらに積極的に進めてほしい。

あと、高齢者関係になるんですけれども、リバースモーゲージという制度が武蔵野にはあるんですけれども、その活用があまりされてないと聞いたんで、その活用をよくやってほしいなということ。

また、最近若い人が武蔵野にあまり住まないで、どんどん高齢化が進んでいると聞いたので、例えば親と同居したら多少住民税を減税するとか、そういうような制度の導入をしてもいいのかなと思いました。

年金制度なんですけれども、市とは直接関係あるかどうかわからないんですが、今、保険料の徴収を市から国の方にたしか移管したと思ったんですけれども、徴収率アップのために、もう一回市に戻してはいかがかなということ。

あと、ちょっと個人的なことになっちゃうんですけれども、市立の小学校の制服化。

もう1つ、これも個人的なことになっちゃうんですけれども、酒井さんが自由大学のことで言っていたので、私も聴講しているんで、1つ言いたいんですが、後期履修のスタートをさせてほしい。2月に募集して4月スタートしかできないんですが、後期分のスタートの募集がされてないんで、それをやってもらえると、スケジュールの関係で、いきなり1年分を立てるというのは非常に難しいものですから。

以上です。

○田中 4点だけ。

1点目が、入札制度の透明化。2点目が、庁内公募制度の拡充というか、徹底して使う。3点目が、ベンチャーのインキュベーション施設の設置。4点目が、研究所の誘致税制。  
以上です。

○西村 新しい項目ではないのですが、市民参加、市民自治の推進のためには、自立した市民のための学びの場の保障、具体的には教育委員会の生涯学習の見直しということで、酒井さんの話の中の一部にかかわるのですが、一応出しておきます。生涯学習の見直し。

○藤本 一番上の政策理念の実行可能な計画策定に入るのかもしれない。ただ、具体的には、市債マイナス基金という、その残高をきちんと管理する。要するに市債が膨大になって、返済できなくなるようなことは避けなきゃいけない。

もう1つ、政策理念としてというか、これはシビルミニマムになるのかもしれないんですが、行政のやるべき最優先事項というのは、食料を確保し、防災・防犯をきちっとやる、

アダム・スミスの警察国家みたいなものですが、そういうことがまず政策理念としてあってもいいんじゃないかと思います。

○菊池 今の後半部分は、短く言うと何と言うんですか。

○藤本 防犯・防災が最優先。政策理念として、ですね。その上にいろんなものが乗っかっていく。

○三上 今まであったことと重複しちゃうんですけれども、オンリーワンを求めようというのがありました。武蔵野市としての基本理念みたいなものですね、基本理念を設定するということです。

○宮本 2つ。固定負債残高（職員退職引当金以外のすべて）が10年以内にゼロになる財政運営を行う。要するに負債残高、借金を10年以内にゼロにしてくださいということです。

2番目、理念になりますけれども、環境と固定負債は未来世代からの借り物であることに留意した行政政策を実行する。

もう1個、訂正があるんですけれども、もう一回回していただけるようですから、そのときに言います。

○安田 ありません。

○菊池 それでは宮本さん、今のことでおっしゃってください。ほかの方は全部おっしゃっています。

○宮本 私は屋上緑化と言ったんですけれども、屋上緑化と話したから、緑・市民の方に分けていただいたのは当然のことだと思いますが、追加として、緑化に加えて太陽光発電の推奨、雨水浸透ますの推奨、環境に配慮した施策を最重点に置くというので、政策理念に持って行っていただきたいと思います。

○菊池 とりあえずと言いましょか、お手持ちのこまを全部吐き出していただいたということなんですけれども、きょう、澤田さんのところで全部を今記入するのはちょっと難しい部分があるので、これは後の作業になるということなんです、ここまで議論を終えたところで、前回ときょうここまでの議論の全体を踏まえて、酒井さんでしたでしょうか、全体的なことをご提案したいということで資料をご用意いただいておりますので、酒井さんの方からご説明いただけますか。

○酒井 お時間を割いていただきありがとうございます。前回、澤田さんと田中さんの労作で、皆さんが出したものがこうやって図になって一目できるようになって、改めて内容を確認させていただいて、きょうはどうしても言わせていただきたいことがあったので、

文章にしてみました。よろしくお願いします。

私が提案しました、先ほど高橋さんがおっしゃっていた自由大学の件なんですけれども、提案したときはブレインストーミングでしたので、単純に自由大学の見直しという言葉でくくってしまったんですが、実はそのことのもとになることというのは、今ここに挙げておりますように、皆さんが出されたようにというか、市の方で、本当に市民との協働を求めているのであれば、ここにも出ていますが、中項目に「市民参加促進」、大項目のところにも「市民の意思決定への参加」というふうに、自分たちが市の行財政にかかわって積極的に住むまちをよくしていくんだということを私たちは前面に出しています。

しかしながら、もしそれをするのであれば、市が持っている、一番最初のこの会議のときを振り返っていただければわかるんですが、市の状況、市の政策、行政に関して、私たちは何も知らないということで、いみじくも澤田さんが、僕は何も知りませんという言葉でおっしゃいましたように、私の持っているこまというのは職員よりも非常に少ないものでした。情報も少なければ、行政に対する知識もない者と、それをあらかじめ持っている職員が同じ土俵で協働していきましようということは、既にそこで私たちは不利な立場にあるわけですね。

この行・財政の会議に参加されている皆さんは、それなりに皆さん、高いレベルの教育を受けられている、または社会での多様な経験をお持ちですから、この難しい単語に関してもすぐわかる、組織についても組織図を見ればわかるというふうに、ある程度自習すれば、多分職員と同じくらいの知識は持っている。情報に関してはまだまだ少ないんですけども、だと思えます。

住んでいる武蔵野市では、私たちと同じように高い意識を持って暮らしている人ばかりではありません。もう少し言うと、私がかかわっている障害のある方たちは、自分の置かれている立場がこれでいいのかすらもわからない状況、つまりエンパワーメントできてない状況で暮らしていらっしやいます。もっといろいろなことを知れば、自分の置かれている立場はちょっとおかしいぞ、もう少しこういうふうになりたいんだということがわかっていくはずなんです。そういう場がなければ、協働すること、要するに一緒に対等に話し合っってよくしていこうということは難しいわけなので、ぜひ私は、まず市が市民協働を求めるならば、そして私たち自身が市民参加をしたい、市とともに一緒に武蔵野市をよくしていきたいと思うのであれば、それを学ぶ場をまずきちんとつくっていかなければ、全くだめだと思うのです。

そこに大きく書きましたが、「市が市民と協働し行政改革をしたいと希望するのであれば、そして、私たちも市民参加促進を望むのであれば、市民が情報を十分に得られる機会と共に情報を正しく分析できるだけの知識」、つまりカルチャーではなく、自治法がこうだとか、組織がどうなっているとか、いろんなレベルで、もちろんそれがきちんと最初から高いレベルでわかる人もあれば、そうではない人もいるわけですから、そういうように市民大学をもっともっと活用できるものにしていきたいという意味での提案でした。単純に市民大学のやっている時間を見直せとか、来ている先生に対するお金がどうのこうのということではなくて、私の提案としては、むしろ大項目、中項目の方に入れたい内容だったということを再度ここで確認させていただきたいと思います。

蛇足なんですけれども、一番最後に「地方公共団体の行政の基本は」という地方自治法の中の福祉の増進について、僭越ですけれども書かせていただきました。それぞれが求めている幸せを実現するための私たちの住んでいるまちですので、みんなが、それこそ障害があろうがなかろうが、中学出ただけで、日々暮らしているだけでいっぱいという人も幸せになれるための教育の場をぜひつくっていきたくて、強く、今回は関連をいただいて提案させていただきました。先ほど西村さんがおっしゃっていたことと若干ずれるか同じか、ちょっとわかりませんが、私の思いをぜひ言わせていただきましたので、お時間、ありがとうございました。

○菊池 どうもありがとうございました。今のところで、酒井さんの中で、武蔵野市民大学、これは自由大学という言い方でされていますね。

○酒井 そうですね。間違えました。

○菊池 見直しというよりも、拡充じゃまずいですか。

○酒井 そうですね、できれば……。

○糸井 ここで議論すべき問題ですか、これは。語る会で話すべき内容じゃないの、これは。

○菊池 個々の提案は先ほどで終わりました後で、こういう全体にかかわる、先ほどの小島さんから出たご意見などもそういった全体にかかわる問題かなと受けとめまして、全体にかかわる意見の1つとしてお伺いいたしました。ですから、ほかにこういったご議論があれば、次の整理に向けての議論として、していったらよろしいんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

○糸井 ここではブレインストーミングをやりましょうと決定されたんですから、それは

それでやるべきだと思うんですよ。

○菊池 もちろんそうですよ。

○糸井 ブレーンストーミングの前に、先ほどの大項目を先に全体ができない云々というのは、これをやろうと決める前の問題であって、決めてから今ごろそういうことをいってもしようがないと思うんですよ。これをやろうとするんだったら、これを効率よくやって、まとめるという方向で決めたんだから、それはそれでやるべきだと思うし、酒井さんの今のご意見は、市長と語る会とか、そういう中で話すべき中身であって、この分科会で話す内容ではないんじゃないかと思うことと、一番上の2行目に書いてあります、「行政に関する知識を市民より多く習得しているであろうことは容易に想像できる」ということは、市民は、少なくともこの中にいる全員の人がこんなことを考えているわけではありませんよ。

○菊池 ですから糸井さん、個々に入っていきますといろんな意見がございいますから、その意味でのブレーンストーミングですので、ちょっとそれは控えていただいて。私が思っていますのは、いよいよこれから、個々に出てきたこれをどう整理していきましようかという局面に入らざるを得ないわけでありまして。そこで、その前に、今恐らく酒井さんは、単なる自由大学の見直しといただけでは言葉足らずなので説明したかったと、そういうことだと思うんです。こう言っちゃ悪いんですけども、その程度に受け取っておけばよろしいのかなと。

○酒井 おっしゃるとおりです。ですから、できれば細項目ではない、ではあるけれども、そのベースはこういうことなんですよということを言いたかったというだけであって。

○安田 自由大学というのは、今、教養の場なんですよ。だけど、酒井さんのいうのは、教場というか、学ぶ場なんです。特に限定しているんですよ。市政について、自治について学ぶ場を市がつくってくれ、平等じゃないよと、こういうことを言っているんですよ。

○酒井 おっしゃるとおりです。

○安田 だから、長くなったけど、新しい提案。自由大学を下げて、ここに入れかえてくれということですよ。そうですね。そうですね。

○酒井 ちょっとそのあたりが自分でわからなかった。そうです。言いかえていただいて、ありがとうございます。

○安田 だから、この場じゃない問題じゃないんです。

○菊池 ありがとうございます。

それでは、ここで場面の多少の切りかえがあります。どう整理していきましようかとい

う議論に入りたいと思うんですけれども、ここで私の方から、今までのご議論あるいは澤田さん、田中さんにつくっていただいたこの一覧表、これを整理していくに当たって、僭越ですけれども、こんなことを考えてみたんですけれども、どうでしょうかと。何も押しつけるつもりは全くございません。反対であれば反対で結構ですので、そんなものをちょっと大急ぎでつくってみましたので、お配りさせていただきます。

〔資料配布〕

○菊池 それでは、お手元の資料を見ていただきながらお話しさせていただきますと、先ほどどなたかおっしゃいましたように——もっと身近なところからお話ししましょう。

澤田さん、田中さんがおつくりいただきました一覧表ですね、まとめていくに当たって、これは私の1つの、こうしたら、あるいはどうでしょうという提案としてお聞きいただきたいんです。大項目、中項目、小項目、細項目となつてございますが、実は市が何をやっているか、あるいは市に何をやってもらいたいかという議論は、一言で言ってしまうと政策論でございます。政策論と言いますのは、目的と手段の関係でとらえていくのが一番わかりやすいわけです。

そんなことで、お手元を見ていただきますと、一番上に、大上段に振りかぶって言えば、私たちが人生を送る中で一番大事なことは個人生活の充実だと、仮にこれを究極目的だと仮定します。仮でございます。そのとき、私たちは、プライベートな欲求を充足すると同時に、公的な欲求も充足しなければいけない。プライベートな欲求というのはほとんど市場で満たすことができるわけですから、市場で満たすことのできない欲求、満たしたくとも所得が足りなくて満たせない人たちもいるわけです。そこで、当然、自治体がかかわってくる。もちろん、国、都道府県もあるんですけれども、そうなるわけですから。

さて、そのときに、話を急ぎますが、皆さんの中から出ていますように、市の基本方針とか理念といった場合、これが目的になるわけです。その目的を具体化したものが、一番手っ取り早くいえば自治基本条例、これは先ほど澤田さんがおっしゃったように、自治体の憲法のようなものでございます。ですから、全体を理念的に網羅しているわけですね。これが基本理念を実現するための手段と言いただけるわけです。

ところが、この手段であります基本条例は、逆に基本条例の具体化ということを考えますと、目的になるわけです。基本条例を具体化するためにはどういう手段があるかということになってきます。そう考えたときに、政策の企画・立案・策定ということを手段として考える。そうしたときに、その目的として、私は大まかに取り上げてみたんですけれど

も、このような福祉政策、教育・文化政策等々が考えられるであろうということです。

こういう幾つかの政策目標ができたとして、じゃ、手段としてどういうものがあるか。物的手段として整えるものが財政（予算）であります。その予算を統括するもの、実行、執行に当たるもの、これが行政であります。市長以下、議会、市職員組織がかかわってくるわけでありまして。ここで我々の関連しております行・財政という名前が出てくるわけです。

さて、左側の財政の方ですけれども、物的な手段ということで、とにかくお金で換算するわけです。したがって、目的別分類というのをどこの自治体でもやるわけですけれども、そのような議会費、総務費云々というような分け方がされているわけでありまして。しかし、これは行政上の必要性からこんな分け方をするんですけれども、私たち、ここで議論するときには、もうちょっと大枠でとらえて、一番下に示したような福祉関係、教育文化関係、商工関係、安全対策、公債費、その他。その他というのは、多分条例だとか規則とか、そういうものを考えて入れてもよろしいかなという気がいたします。

こういう中に、皆さんから出てまいりました個々の項目が、福祉目的を達成するための手段として、皆さんから出されたようなものが手段としてくっついてくるだろうと。教育文化であれば、教育文化に係る皆さんからのご提案がここに手段として入り込んでくるのかなと。そういうことでございます。

行政という右側の下半分を見ていただきますと、これは行政組織という形で、その組織をどう運営するか、組織改革をどうするかといったような、皆さんから出てきたようなご提案が個々に入ってくるんだと思います。

それらを総合して、私、ちょっとふざけた書き方をしましたけれども、人の顔になっていきますけれども、ここが皆さんでまとめていただく話になるのかなと。（「この顔は市民ですね」と呼ぶ者あり）そういうことですね。

ということで、もし可能であれば、澤田さんにやっていただいた大項目、中項目、小項目、これを目的・手段、目的・手段という関係でとらえていくと、もうちょっと整理が進むかなという感じは受けているわけでありまして。

以上が、とりあえず皆さんから出てきましたたくさんのご提案、これをどう整理していくかについての1つの、1つのです、提案という形でお聞きいただければ幸いです。

それからもう1つ、小島さんじゃないですけれども、もうちょっと大きなことで言えと



いうお話なんですけれども、私は週の半分は武蔵野市に足を運んでいますので、半分、市民だという意識はあるんですけれども、残念ながら市民税を払ってないんです。だから、大きな顔、できません。ですから、これはやっぱり主人公である市民の皆さんにその辺は考えていただくことが大事だと思うんですけれども、実は皆さんの中に既にそういう大目標とおぼしきものがたくさん出ているような気がします。

例えばきょうも早速、糸井さんの方から合併の話なんかも飛び出しております。余計な話ですが、昭和30年代でしょうか、三鷹市、武蔵野市の合併の話が出ていたのを私は思い出します。あるときは武蔵野市は賛成で三鷹市が反対、またあるときはその逆だったとか聞いていますけれども、実は私、つい数週間前に、三鷹市の市民大学講座で講演をしました。その中でも1つお話ししたんですけれども、今、合併、いろいろ自治体の分権の問題が出ていますけれども、私どもエコノミストはとかく考えるところがあるんですけれども、やっぱり皆さんも思うと思うんですね。最適な自治体の規模ってどの程度なんだろうと。これがわかれば、効率的な財政運営、行政、見えてくるわけですね。

ところが、研究結果に基づけば、どういう行政サービスをやるかによって最適度が違うんですよ。例えば介護保険を赤字出さずにやるにはどうしたらいいかと言うと、大体研究結果によると、30万規模がちょうどいいらしいんですよ。それから、ごみ処理、上下水道関係でいうと、15万くらいの人口規模がよいとか、行政サービスによって最適規模は違ってきます。だから、一筋縄でいかないんですけれども、しかし大まかなところで言うと、大体15万~30万くらいがいいんじゃないかという議論をする人が大勢いるんです。

そこで私、余計な口、滑らしちゃったんですけれども、武蔵野市の人口13万、三鷹市17万なんです。30万で、あるいは最適規模かもしれませんよと、そんなことを申し上げたことがあるんです。

それからもう1つは、今、武蔵野市民だ、三鷹市民だとおっしゃるけれども、交通手段の発達等で、どこも同じだと思うんですよ。武蔵野市民、三鷹市民、区別つきません。ということで、そういう意味で言えば、効率性だけを言えばですよ、合併という話をもっともっと進んでおかしくないわけで、糸井さんあたり、そのあたりを考えているのかもしれない。

等々で、大所高所から言えといわれれば幾らでも物を言えるんですけれども、これは皆さんにお考えいただくのが一番いいんじゃないかと思っております。

僭越でしたけれども、小島さん、答えになっていますかどうかわかりませんが。

○小島 先生ね、また長くしゃべると怒られちゃいますけれども、我々全員がまずはブレインストーミングを出したわけですね、きょうの分まで含めて。その辺で一遍、この中からどれをまずスタートしていくかということ、これは国民の声ですから、市民の声ですから。先生という意味じゃなくて。そこら辺で誘導していただいて、みんながどうであるか、それがいいとかいうふうにするのにまた時間がかかると思うんですけど、それは有意義だと思うんですね。どれを選ぶかということはかなり時間がかかると思うんですよ、これはやっぱり。だから、それをやらないと時間が間に合わないんじゃないかと、私、思いました。

○菊池 ありがとうございます。私、1つだけ、皆さんに、おこがましいんですけども、整理していく中で申し上げたい。

武蔵野市民である皆さんが、武蔵野市としてのアイデンティティをどこに求めるかということ、結局そこに尽きるんだと思うんです。これは難しい話です。

実は、前にもお話ししましたがけれども、武蔵野市というのは全国に名がとどろき渡っております。それはなぜかと言うと、例えば福祉の話で、武蔵野方式という形で、30年も前に武蔵野市が手がけて、そういったことで全国に名がとどろき、その後、どんどん新しい提案がなされるたびに、全国の自治体が注目したということがございます。最近、ちょっとそういう斬新なアイデアが出てないようですけども、そういったことで、全国が注目していることは事実でございます。

そうした中で、武蔵野市民としての誇りも当然おありでしょうから、何か考えられたらどうなのかなという気がいたします。私はそのくらいにしておきたいと思います。

○糸井 そのことで質問があるんですけども、この図はモデル図ですから、一番上に「個人生活の充実」と仮定として置かれましたね。このほかに考えるとすれば、例えば持続可能な地域社会の形成というのが、こういう形で仮定をすることができますね。

○菊池 もちろん、そうですね。

○糸井 そうすると、その下が自治体ではなくて、都だとか国だとかいう上位概念がここに入ってきますね。対応するものですから。そういう体系図は先生は用意されていらっしゃるのでしょうか。これはこのモデルをもとに皆さんで考えなさいということですか。

○菊池 いや、そんなおこがましいことは。私、いきなり自治体と書きましたのは、当初の会議あたりで、補完性の原則というのをお話ししたかと思うんですけども、自治体、公的団体が、何か住民との関係でやろうとするとき、一番住民に近いところがまずこれを

手がけるべきだと。そこで十分できない場合に、初めて上位団体である都道府県とか国がかかわるべきである。これは補完性の原理と言って、今、世界じゅうでこれが広く支持されている考え方であります。そこで私も、ここにいきなり自治体を持ってきたわけです。今糸井さんがおっしゃったように、このすぐ後ろには、自治体で解決できない部分については都道府県、国が当然かかわってくるということになるかと思えます。

それからもう1つ、糸井さんから大変すばらしいお言葉を言っていただいたんですけども、持続可能な自治体ですか……。

○糸井 地域社会の形成。

○菊池 ですから、市の基本方針の理念の中に、幾らすばらしい理念を掲げても、長続きしなければ意味がないわけですから、当然その基本方針、理念の中には、意識的にせよ、無意識的にせよ、まあ意識的に入れていいと思うんですけども、そういうのが入ってこようかという気はいたしております。

○安田 本当にそのとおりなんですけれども、今回応募したのは、基本理念はさわらないということ的前提にしているでしょう。私もアイデンティティというのはわかります。そう思うんだけど、やめちゃったんです、全部。恐らく小島さんもそういうのが強いんだと思う。だけど、さわらないと言われているから。

○菊池 皆さんから出されたこの案を見まして、どうしてもはみ出す部分がたくさんあるわけですよ。ですから、皆さんのお考えになっていること自体が行・財政におさまり切れない部分を持っていらっしゃるんだからしょうがないと思うんですよ。ちょうど澤田さん、田中さんが別枠で大きい項目として設けていただいた。これはこれで、この委員会として、管轄領域をはみ出ているけれども、これが市民の偽らざる心境なんだって出せばいいんじゃないですか。

○安田 それをまとめるときに、付言とかありますよね。少数意見とか、裁判所やなんかでもあるでしょう。ああいう形をとれば、そのときにいろいろ。むしろそんなことよりこっちが重要だというんで、それを主文にしてもいいわけですよ、極端に言えば。それが強ければ。こんなのは枝葉末節だから、こっちが主文だというのが市民の声だったら、それでもいいんですよ。

○菊池 私のコメントに関して申し上げましたけれども、これなど、ごく一部、参考にさせていただいて、これからの時間、あとちょうど1時間ございます。この整理の仕方、小島さんがおっしゃるように、大目標をどこに置くかの議論もあれば、下から中目標くらいを

幾つか決めていくのがいいのかとか、いろいろ議論がおありだと思うんです。その辺、それこそブレインストーミングでいいと思うんですけれども、意見を出していったらいかがでしょうか。

○安田 先に落としどころじゃないですけど、提案書を想定すると、行政と財政と、行・財政で一緒になっていますけれども、それで分けて、恐らくここで相手が要求していることは、中長期計画の見直し、修正する問題点を指摘して、提言しろと。整理、問題点を抽出して提起、調整計画をつくるために提言しろと言っているわけですよ。だから、そこに、最初に先生が言われた、これに出ているとおっしゃったものもそうだろうと思う。それに限定するか、あるいは、今そんな問題よりもこっちが大事だというんで、基本方針ですか基本概念、これは抽象的過ぎて、窓をあけるとか何とかいつているけれども、だめですよ、こんなじゃ。だから、こっちの方が重要だ。まず、そこに2つ分かると私は思います。

その次に、もし提言の内容を具体的に出したいとおっしゃるんなら、確かにこれだけ出していますけれども、抽象的に提案すると取り上げてくれないと思うんですよ。例えばここで、全くそのとおりなんですけど、公会計制度改革、こういう言葉だけだったら取り上げる方ができない。具体的にこうだと。私、そういう意味で、定期預金と借入金の両建てという言葉を出した。具体的に147億定期預金してて、270億借り入れしている。こういうのはけしからんとか、具体的な言葉でやる提言。そうすると、どうしても5つか10に絞られると思うんです。そういうことが提言書の頭の中に描かれる。そういうのが1つなんです。

○高木 十分整理し切ったわけじゃないんで、ぐじゃぐじゃした話になるかもしれませんがけれども、とりわけ市民会議の中で行・財政という分野に応募して物を言いたいとか考えたいということの1つの動機として、この間の状況で言うと、例えば一番悲劇的なケースとして夕張市というのが頭にあって、我が武蔵野市がそんな目に遭ってもらっちゃ困るといのが1つの大きな動機というのはあると思うんですね。

そういう意味で言えば、あそこでいろいろマスコミの論調もあるんですけども、国の政策誘導だという話もありますけれども、ああいうふうになっていったことを市民たちが見逃したことについての反省と言いますか、あんなっちゃんらぬのだ、ちゃんとリアルな市の状況というものを含めた上でどうするのかと言うと、そこを担っている自治の担い手である市民の責任なんだということが、時代の1つのトレンドだと思うんですね。そういう意味において、私たちが自治とか市民参加を求めるといのは、何も権利だとかいう議論よりも、自分たちがこれからここで暮らしていくについて、ちゃんと責任を分け持とう

という、そういう思いだろうと思うんです。

そういう点でいうと、今回のブレインストーミングを通じていろいろ出されてきている1つの大きなものとしては、市民参加とか市民自治というものが本当に実効性のあると言いましょか、単なる建前とかお題目じゃなくて、本当に役に立つ市民参加、市民自治というのはどういうものなのかということ、システムの問題も含めて、さらには酒井さんがおっしゃるように、市民自身がどうしたらもっと成熟した担い手になるのかという仕組みまで詰めたものとして、自治というのを本当に。

だから、ある意味では市民会議そのものが1つの訓練の場と言いましょかね、そういう場でやっておると思うんで、これ自体を成功させることが僕は大事だと思っているんですけども、そういうものとしての自治を本当に意味のあるものにするためにはどうすればいいのか。自治基本条例というものも、できればいいというような次元の、恐らくつくればいいというものじゃないと思うんですね。どうしたら本当に中身があって、実際に市の行方を担えるような市民たちがそのシステムに参加してやっていけるのか、そのことをきちんと出すということが、今回のこの会議の1つの、どこまでいいものを出せるかどうかは別として、挑戦するということが、僕たちの大きな課題だろうと思うんです。

もう1つの問題は、財政の問題について言うと、小島さんがいろいろご心配なさることは全くもっともなことだと思うんですけど、「あつものに懲りてなますを吹く」じゃないですけど、とにかく儉約すればいいんだという話では僕はないと思っていますですよ。自治体の役割というのは、何も少ないコストでやって利益を上げるのが自治体の目的じゃなくて、自治体の仕事を通じて市民の生活をどう支えるかということが課題であれば、そのことについての、ある意味でいえば、僕はリアルに武蔵野市の財政というものについての基本認識を共通させないと、どれだけ儉約しましょうというお題目論になってしまうとか、もっと切ればいいじゃないか、サービスを切り捨てれば、何もしなければ黒字はつくれるだろうけど、そんなものを我々は求めているわけじゃないという点でいえば、1つはプライオリティというものについて、我々が共通の1つの認識を持てるかどうかは別として、少なくともさっきの自治の問題とのかかわりで言うと、市民のプライオリティを自分たちで決めていくということの仕組みのような問題については何か言わなきゃならぬじゃないか。何が大事なのか。

酒井さんからも出ていたけれども、とんでもない立派な学校の校舎をつくるのが市民にとってのアイデンティティとは全然思っていないわけですよ。そういう意味で言えば、

何が本当に必要なのかということについて、仮に意見が一致しなくても、どうすれば1つの施策を通じて、このことが大事だ、こっちに行くべきだとかいうことが、市民の意見が反映できる仕組みをつくるということもあるけれども、言いたかったこととちょっと話がずれましたけれども、もっと正確に武蔵野市の財政状況を知るということも、我々の挑戦の内容として、極めて重要ではないか。

藤本さんがおっしゃったように、あらゆることのあれまで全部数字が出るかどうかは別として、少なくとも先行して都市基盤を整備してきた武蔵野市は、今はリニューアルの時期になるんだと。下水道の問題にしても、学校の校舎の問題にしても、ここ10年、20年の間物すごくかかるんだよという、これがまた単なるおどかしになっちゃって、だからおまえら、倹約しろとか、サービス少なくとも我慢しろという話じゃ困るわけだから、それは正確に、どういうことなのかということ踏まえた上で、じゃ、そのお金はどう使うのかということについて、少なくともこの市民会議の作業の中で、こういうふうな考え方でいくべきなんだとか、こういう仕組みでいくべきなんだとかいうことまで、やれるだけのことをやってみるべきじゃないのかと思って、僕はこの2つのこと、その上でももちろん無駄なことをする必要はないわけだから、もっとここは効率化すべきだとか、ここは減らすべきだということは提言していいと思うんですけども、それは全体の流れの中で言えば、もっと財政状況をリアルに踏まえた上での提案というものにならないと、単なる減量経営万能論みたいなことになりかねないなと思っています。

どっちかという、私は、どうすれば武蔵野市における実質的な市民参加の質をもっと高くできるかということと、財政についての正確な理解とその発表みたいなものが、この市民会議の1つの大きな課題になるんじゃないかなと思っています。

○糸井 今の高木さんのご意見は全くもっともだと思うんですけども、僕はその上に立って、きちっと財政の状況を知ることが前提だと思うんですね。今回、ここの分科会でやることは基本的に3つあって、1つは、現長計の調整計画として、今あるものの実態が、本来のあり方としてこれでいいのかどうかという視点が1つ、当然あってしかるべきだと思うし、もう1つは、再々申し上げているように、社会の構造全体が変化しているんですから、その変化の中で、この調整計画で策定された中身がこれでいいのかどうかということが当然議論されなければならない、分析する必要があるだろう。

3つ目、もう1つ重要なのは、従来の市のやり方あるいは市の従来の経験などで、全く欠落している視点があるわけですね。構造変革の新視点と言いましょ、そこから見た

現計画の分析という3つの基本的な流れが必要なので、時々出てくる、今あるものを分析すればいいというだけのものじゃなくて、変革した中で今のものがどうなのかということと、今までには全く欠落している視点も随分ありますから。もちろん今、ブレインストーミングで出された中でもそういうものがありますのでね。だから、そういう3つの大きな視点をきちっと踏まえた上で、調整計画の分析を進めていく必要があると思うんです。

○菊池 先ほど、安田さんもおっしゃってくださったように、恐らく市当局、こういう言い方をすると後ろ側にいる市当局の方にどう受け取られるかわからないんですけども、恐らく市当局にとっては、中長期計画がベースにありますので、それから今糸井さんがおっしゃったように、これは数年前につくったもので、その後の状況変化に照らしてどうかを検討してほしいと。ここに市当局のポイントがあると思うんですね。しかし、皆さんのご意見を私なりに伺っていると、それだけではとどまらない熱いものがあるわけですね。だから、それが入ってくるものですから、市当局の方々は、これは大きな問題になりそうだというようなところがおありなのかもしれません。

そこで、今、糸井さんがうまくまとめてくださったのは、中長期計画ということがベースにあるんだと考えますと、現状がどうなっているのか、それから経済社会環境が数年前これが策定されたときとどう変わったのか、それに対して我々はどう対応すべきなのか、ここはやっぱり押さえておかないといけないと思いますね。

そこで、私、いつか申し上げようと思っていたんですけども、1つのポイントとして、武蔵野市民の方がどうお考えになるか、少子化の問題です。武蔵野市の特殊出生率、0.77くらいですよ。お隣の三鷹市は0.96くらいだったと思います。その南側の調布は1.06くらいあります。この差を、皆さん、どうとらえるでしょうか。

私個人なりに判断しますと、前にちょっと申し上げましたように、武蔵野市と三鷹市のオープンスペースの度合いを考えたときに、三鷹市の方がオープンスペースがあるのかなと。武蔵野市はちょっとそれが窮屈になっていて、それからもう1つは、一大商業地を抱えていることもあって、地価が高くて若い人が入りたくとも入ってこれない、こういう部分があるんじゃないかという気がするんです。だから、この辺が、皆さん、武蔵野市民としてどうお考えか。先ほど高橋さんでしたか、若者がずっと入ってこれるような市をつくらないといけないだろう、これも状況変化の1つだと思うんですね。私が思っていることの1つです。

ほかにどうぞ、ご意見、遠慮なくおっしゃってください。

○澤田 これをまとめて、ふっと思ったこととも関係するんですけども、細項目のところなんですけれども、こちらは、例えば「ムーバスの廃止、値上げ」とか、「吉祥寺ロンロン屋上の駐輪場化」とかというようなことは余りにも具体的過ぎて、恐らくどこにも表現できないと思うですよ、我々の中で。ですから、我々がどこまで表現できるかと見ると、例えば小項目を例として入れるぐらいで、恐らく大、中項目の部分しか表現できない。ある程度抽象化しないと、できないと思うんですね。皆さん、具体的な話をいえば、何万でも出てくると思うんですけど、それは皆さんの心の中でまとめる作業をしていただいて、それで出していないと、散漫するけれども、まとまらないということにならざるを得ない。

私がおもしろいなと思ったのは、都市基盤のところはほとんどだれも言ってないんですね。「北町地下鉄の導入」って、ちょっと実現不可能なようなことが書いてあって、これがないんですね。ということは、皆さん、もうそろそろ市民の方で、物はいいいということが大体この中に含まれているのかな。

一方で、多い項目で見ますと、組織ですね、行政の中の役所組織・制度改革とか、財政の中でいえば、有効利用、削減ですね。この辺のところはやっぱ熱いというか、皆さんの話を総合していくとそんな感じかなという感じがしまして、物はいいい、これから何していくのかというところが、政策理念の中を見ても、何となくそういうことが書いてあるのかなという感じがしますね。

私なりに考えると、もう物はいいい、将来収入がなくなるんだから、統廃合して、そこは使わないようにどんどんして行って、アイデンティティという意味で武蔵野市はどうするか。私個人の考えとしては、物じゃなくて人だ、人に投資するべきだと。

じゃ、何に投資するのかというところで、子どもと老人とか、何となく私が感じるものですね。だから、ちゃんと働けている人たちはもういいじゃないか。そういう人たちに文化だ、何だといって美術品見せたりとか、そういうことは必要なのかどうか、そういうのは私は非常に疑問を持っている。そういうんじゃないかと、もっとベーシックに、子どもの教育、今国でやっていますよね。子どもの教育改革だって。一番やらなきゃならないという事でやっていますよ。

そこに熱く、例えばクラスの数を全国の半分にしまおうとか、極端な例ですよ。そのくらいの極端なことをやって、これが武蔵野市のアイデンティティであると前面に出すとか、老人に対して、予算をほかの市よりも1.5倍もつけてやる。そんな感じの、それを我々が



アイデンティティだと、そういうふうな感じを出す、それを今後我々はやっていく。あと5年とか、長期的にやっていくべきだというふうに、そういう色づけ、方向づけを、皆さんの中で、この資料をもとにまとめていけたらなという感じがするんです。できないなという感じがしませんか。少なくとも「都市基盤」ゼロですから、これは何となく、皆さん、もういいと、物はいいと、つくるなど言っている感じがします。

もう少しこれを解釈していけば、特に細項目の中でもすごいアイデアが出ているんでしょうけれども、余りにも具体的過ぎて、多分落とされてしまう。そういう人たちはどんどん小項目、中項目の方に上げていって、抽象化して、いや、こういう方向性なんだよということを主張していかないと、切り落とされますよという感じがしますので、多分小項目は無理です。

○菊池 ちょっとまとめさせていただきますと、澤田さんのご意見の中で1つの特徴は、ハードはもう大体武蔵野市はそろっている、ソフトに重点を置くようなご提案が多かった、こういうご指摘だったと思うんですが、私もそんなふうに感ずる1人です。

ただ、ここで1つ、皆さんのご意見の中で誤解があると思う部分、これは批判じゃなくて、どうかそうお聞きいただきたいんですが、市債、市の借金ですね、これはゼロにこしたことはないんですけれども、ゼロにする必要はないんです。逆にゼロというのはおかしいんです。

どういうことかと言いますと、学校を建てますよね。建てるときの経費は、そのとき税金を負担していた人たちだけが負担して、しかしその学校の便益は何十年と続くわけです。ですから、借金をして建てて、その返済を10年後、20年後の新規納税者にも負担していただく。こういう意味で、あえて借金で建てることの方が合理的なんです。一遍に現金でやると、その世代の納税者が重い負担を背負うことになるんです。それを各世代で少しずつ負担するという意味で、あえて市債を発行してハードを建てる、こういうことがありますので、市債ゼロ、借金ゼロがいいと、これはちょっと財政の方からいうと、そうじゃないんです。あえてそういう寿命の長い公共施設は借金をして建てて、各世代で少しずつ負担をしてもらう。これが合理的だということなので、これは誤解のないようにしていただいた方がいいと思います。

その意味で、例えば都市基盤はもういいんだという話が出ましたけれども、学校の建てかえ時期が、今どこの市町村でも起きています。これはやらざるを得ないんでありましょう。だから、そういう意味で、それは別として、どうも武蔵野市を見ていると、ソフト

の部分を中心に充実とか、いろいろあるのかなという気はしますけど。

○藤本 今のことについて。私は決してゼロにしてほしいと申し上げたんじゃないです。

○菊池 もちろん、藤本さんなんて言っていません。

○藤本 市債マイナス基金というのの残高が、この改革検討委員会によると、このままでは非常に悪くなるよということを言っているわけです。ですから、それに対する歯どめをかけなきゃいけないということを行ったんであって、決してゼロにしろと言ったわけではない。誤解のないように。

○宮本 私がゼロと言ったんですけど、私の知識はその程度ということで教えていただくのも、酒井さんが言った、市の人の考えと市民とのレベルの差というのがそういうことであらわれてきて、したがって我々も財政のことがそれだけわかりにくいという1つの証明。

もう1つは、しかしそうおっしゃっても、基金というのがあります。具体的にいえば、武蔵境、今住んでいるんですけども、立体交差にかかわる基金とか、職員の方の退職積み立ての基金と言うんですか、そういう基金という方法もあると。基金というのは、余ったうちから、それを節約して、目的のために積み立てて使って使う。そうすると、非常にあいまいになる線があるんですね。

例えば学校を何年後に建てかえするから、じゃ、建てかえ積立基金をつくってこうと。それを積み立てて行って国債で運用しておこう。一番安全なんですね。すると、利子もつく。金もちゃんと安全だということで、金がたまったら、そこで建てかえをすればいいという方法もあると思うんです。それも、今、後年度の方にも負担していただくというお話だったんですけども、積み立てていくといっても、その世代で均等に税金を負担しているわけですから、そんなに差はないと思うんですよ。市債にしよう、基金にしよう。できれば借金である市債というのは、金利が、60億借りたら、金利のレベルは国債よりちょっと上というのが相場ですから、1.何%、2%。そうすると、2%の金利を毎年払うわけですから、毎年1億何千万の金が出ていく。それは固定費として出る。固定費がふえますと、経理をされている方はおわかりと思うんですけど、財政の硬直化につながっていくわけですね。それはやっぱり基本としては避けなくちゃいけないわけですよ。そういうことで、市債ゼロという表現で私はしたんですけど。

○菊池 そうなんですね。市債というやり方と、積立金を積み立てていくやり方、宮本さんがおっしゃったようにね。

○宮本 基金ですね。

○菊池 基金としてね、2つあるということです。

○島田 今、先生のおっしゃられたことに対する私の意見なんですけど、一般的にそういうふうに言われています。だけど、それで今の日本の借金、同じような考え方でどんどん増やしてきたんだと思うんですね。やはり私はそのやり方というのは、今言われた基金とかそういうことで積み立てていく方がより現実的というか、健全ではないかと思うんで、私は市債は減らしてほしいなと思います。

○菊池 市債はやめて積立金方式でやると。

○宮本 借金と貯金の差ですから。

○菊池 それはバランスの問題で当然あります。

○酒井 先ほど、時間をいただいたので、ほとんどいわせてはいただいたんですけども、今皆さんの意見を聞いて、さっき糸井さんがおっしゃったように、先生の「個人生活の充実」を、糸井さんが「持続可能な社会」ということで置きかえられたんですが、安田さんもおっしゃったように、基本構想というか、ベースはいじれないんだと最初言われていたんですけども、ただ私は、基本構想の持続可能な社会をつくろうというのは、これとはとても重要だと思うんです。自分が住んでいるまちが常に豊かで持続していくことが重要だと思っていて、それに対してここで意見を言いたいと思って参加したというのが動機だったんですね。

大分前に手を挙げたので、何を言いたいかわからなくなっているんですが、ですから基本構想はいじらないとは言いつつも、例えばこの中のこれに特化して、行・財政分野では、持続可能な社会をつくろうというこの部分を私たちは支持します。それについて、例えば市民が参加して自治を自分たちできちんとやっていこうというふうに私たちは意見をまとめて提案します。その先としてこういう形をやりたいというふうに、要するに市民参加を促進するという、ただ言葉がいつてしまうだけじゃなくて、その市民参加というのはどういうことなのか。それをきちんと全うしていくためには、どういうことが必要なのかということを具体的に、私たちは、さっきおっしゃったように、抽象的ではだめだから、5項目か10項目挙げていけばいいんじゃないかと思うんですね。

それで、さっき高木さんがおっしゃったけれども、例えば公共団体のお金がどのくらいかかるということを含み隠さずきちんと出す。要するにすごいことになっちゃう、すごい数字が出ちゃうかもしれないし、もしかしたら本当に市のやり方を批判するような数字が出てくるのかもしれないんだけど、そういうきちんとしたものを、本当に子細なもの

を出して、そしてそれをパブリックコメントという形できちんと最後まで見守るんだとか、あと、さっき少子高齢化と言ったけれども、今まで武蔵野市は高齢者に特化していたけれども、今度はそれをシフトを変えて、子どもに特化する。要するに武蔵野市と言えども子どもという形に今度は持っていくとかいうような、シフトを変えるということもありなのかなと、今皆さんの意見を聞いて思っていました。

もう1つ言わせていただくと、三上さんが前に出された、公共施設に対して、味の素スタジアムみたいにやる、ああ、そうなんだな、そういうこともできるんだなと思ったので、そういう具体的なユニークな意見を私たちは出してもいいのかなと思いました。

○菊池 この議論、もうちょっと続けますけれども、こうした議論は、私の立場できょうはやらざるを得ないなと考えている理由の1つは、きょう新たな提案も出たわけです。だから、それを含めて、全体で今後どうしていくかを議論しないと片手落ちかなというので、きょうのこの後半部分は、こういう議論で皆さん、いろいろおっしゃっていただく方がよろしいんじゃないのかなということなんです。

○小島 高木さん、糸井さんのおっしゃったこと、さっき聞いてて、これは本当に私もそのとおりのような気がいたします。

私は、企業経営と武蔵野市の経営と、いつも一緒に考えている人間なんですけれども、結局はこの市民会議というのは、企業のトップや幹部だけが考えるんじゃないなくて、いわば社員が一緒になって、社員のレベルの人たちも、情報なり意見なり、気がついたコストダウンなり、やるわけですね。それを謙虚に聞いて、その経営に生かしていくというのが企業経営なんです。市でいう企業経営の理念というのはいっぱいありますけど、私は一番参考になったのは武蔵野市行財政改革検討委員会、これが一番わかりやすく、しかもいろいろ意見を言って、はっきり出ている、これは一番わかると思いました。結局我々、これを勉強して、このブレインストーミングでこれだけいろんな有益な意見が出たわけなんですけど、結局それは、これをどういうふうな視点で見ていくかということで、高木さんとか糸井さんがおっしゃったと思うんですが、私が企業経営上で考えていきますと、大きな前提として幾つかにつかめるわけですね。

1つは、いかにコストダウンをしていくか。これは今の世の中で一番先にそれがよく来るんですが、無駄をいかに減らすかという1つの視点。

もう1つは、企業で言えば顧客、市で言えば市民、市民のために何を優先的にまず大事にしてやっていくかという目ですね、これが1つ。

それから、企業で言いますと、自分の企業は何が一体よそと違う、差別化できるいいものを持って、ここに出ている増収とか、三上さんがおられますけれども、オンリーワンというのは、よその市に無いような、スタジアムの話もありましたけれども、そういうユニークな市民的な発想で、よそのまちからも若い人が来て、行列して、何かを学ぶなり遊ぶなりする場をつくるとか、そこにお金が入るとか、ジブリの森みたいなああいうものも含めて、何か夢のある、市民レベルの、会社で言うと社員レベルの楽しいこと、夢のあることを吸い上げるのが経営なんですね。そして、それは将来に対する動議づけ、あるいは働きがいというものに結びついていくわけですね。

結局市が本当に運営するのは、私は前からちょっと申し上げましたけれども、我々がいかに叫んでも、やられるのは行政の、職員の方なんですね。働いている方なんですね。そういう方々が、我々が意識改革しなくて、上が意識改革すればいい、職員が意識改革するというのではなくて、両方でしていくわけですね。その場がこの市民会議ではないかと思うんです。そういうことをおっしゃっていましたが、ほかの方も。だから、これは本当に勉強会だと思うんですね。

やっぱり職員の方がやりがいのあるような、動機づけになるような、成果主義なんかも私は大事ではないかと思うんです。働いている人の、先ほどだれか人材とおっしゃいました。全くそのとおりで、働く人が一生懸命やらないと、いかに我々が何か希望をいっても、実現しません。会社でも、いかに経営者が立派なことをいっても、社員がやらなかったら、会社は倒産します。

そういう意味で、私はいつもそうやって企業経営と照らし合わせて自問自答しております。そういう意味では、これだけブレインストーミングで市民の声がいろいろ出てきた中に、私、市長のつもりで言ってんじゃないですけど、(笑) 出てきた中に、本当にむだを最優先するのか、夢を最優先するのか、オンリーワンですね、その順番を1つ決めていったらいいんじゃないかなと思うんですけどね。それは指導される先生方のアドバイスでやっていただいたらいいと思うんです。

私はこれだ、私はこれだとここで幾ら言っても、それは今、ブレインストーミングで機会を与えられているから私は言っているんだと思うんです。それはそれでいいと思うんですが、どっかでそういうような、何が一体順番で、結局夢を1つ市民らしい何かを出すのか、オンリーワンの何かアイデアを出すのか、あるいは教育とか福祉とか、最も重点的なものは何かということを考えて、そこへ重点投資をしていくべきということと一緒に学び

ながら提案していくべきなのか。あるいは本当に徹底的にコストダウンをしなければいけないんじゃないかということでやっていくのか。

これは順番はどっちからでもいいと思うんですが、3つくらい、大体何でも3つ挙げれば、私はいつも言っているんですけども、1つは絶対だめ、白黒はだめ、グレーがあるというのはよく言っているんですが、例えばまず3つに、例えばですよ、3つ、むだを廃止する。だけど、むだを廃止するには、目標があるからむだを廃止するんであって、ただけければというのはよくないとさっきもおっしゃったのはそのとおりなんです。だから、目標があるからむだを廃止するわけで、何を一体優先的に武蔵野市で事業をやっていくべきかというのを、もう大前提は市議会で決まっていますから、それに対して意見を言うということで十分だと思うんですね。これからでも修正するならしてくれませんかということで十分だと思うんです。むだに対して、もっと積極的に市民が、会社でいうと社員が、「経営が悪いんじゃないですか。こういうところ、何も手をつけないじゃないですか」と、こういうのと同じだと思うんですね。

私は、会社経営になぞらえて言ったのは、わかりやすいと思って申しあげましたけれども、私は3つくらいを重点的に、何を一体議論していくかということ、大前提をまず決めていただくといいんじゃないかなと思います。それはむだとか、オンリーワンの、これから何か新しい動機づけになるような、そういう夢とかアイデア。

そして私、最後に言いたいですけれども、市民らしさというものを我々は絶対に忘れちゃいけないと思うんです。我々はそんな偉いことをいえる立場じゃありませんし、そんな上の勉強しているわけでもないし、やっぱり市民らしさというものを市長さんに提案する。一番大事なのはその意識。だから、我々自身も意識改革しなきゃいけないと思うんです。

だから、文句ばかり言うんではいけませんので、市民らしい提案というものがこの場に出てきたら、誇らしいものが出てくるんじゃないかなと思います。

済みません、何か演説しちゃって。

○田中 今小島さんがおっしゃられた、企業経営になぞらえてというのは、私にとってもわかりやすかったので、非常に興味深く拝聴したんですけども、以前いただいた資料で、市民会議の概念図というものがあります。お手元にお持ちでしたらごらんいただきたいんですけども、この中で市民会議5分科会として何をすべきかというのがありまして、ここでもって、これは多分市の方にいただいたものだったかと思うんですけども、現状

の長期計画、それに対比して、我々市民が考える水準とのギャップを埋めていきましょうという話だったと思います。

そこには、小島さんがおっしゃるとおりの話でして、我々は市民の視線から、あるいは行政に携わったことが余りない人間から見た場合の多様な価値観ですとか多様な経験に基づいているような、そういう新しい考え方をはっきりするということが非常に求められているというのがあると思います。そういう意味では、小島さんがおっしゃったとおりで、まず現在の行・財政の分野について、それを前回作成していただいたこの表に基づいて幾つかに絞っていく、そして提言していくというのが1つの作業だと思っています。

と同時に、我々の議論の中で、さらに長期計画だとか、それを乗り越えていくような話が幾つか出てきていると思うんですね。それはそれで、長期計画に縛られることなく、出していくべきだと私は思っています、残念ながら現在の長期計画というものも、どうしても今までの行政の立場から見たものにすぎなくなっているというのがあって、それにおさまり切れないような意見ですとか考え方もたくさんあると思いますので、それはそれで、我々が本来求められている、市の方が想定されていた役割にとどまることなく議論し提言していきたいと考えています。

○藤本 皆さんがおっしゃっていることとほとんど同じだと思うんですけども、まず私は、武蔵野市が今やっていることについては満足しているんです、大体において。だけど、これだけはやってもらいたいよということがあって、そしてそれに対して、今の調整計画に入っていないのは、これはやっていただきたいと思うんですけどもね。それは提言していけばいい。だけど、基本的には余り問題がない。

その次の問題として、世の中変わってくると、環境の変化にちゃんと調整計画が対応しているのかという問題。そのくらいですね。糸井さんがおっしゃったこともほとんど同じですし、要するに今までブレインストーミングをやると、何でもかんでも、ちょっとでもあったらいいんじゃないかという程度の話がよく出てくる。これはコストを考えないから何でも出てくるんですけども、変化するには物すごくコストがかかる。だから、できるだけ変化は少なく、本当に必要なものだけを上げていくというようなものにしていただけないかなと思います。

○菊池 今の藤本さんのご意見と絡めた議論として、お手元の澤田さんのおつくりいただいたこの表で見ますと、財政部分で「経費削減」という項目があるんですけども、同時に小項目を見てまいりますと、当然経費がふえるような内容もございます。例えば児童手

当の増額云々とか、いろいろ出てまいります。つまり、皆さんのご提案の中には、もっと行政サービスを充実してくれという要望と、仮にサービスが多少下がってもいいからカットダウンすべきだという議論と、2通りあると思いますね。これは両方ともそれぞれ意味があると思うので、そういう両面から皆さんが考えていらっしゃるということだと思しますので、この辺、整理の仕方の1つの工夫のしどころかという気もいたします。

それから、先ほど小島さんが、市民らしさとおっしゃいました。私もこの会議は、それが一番大事じゃないのかな。と言いますのは、私がかく生意気なことを言いますのは、行政と補助金に関して、実はもう1つ委員会が立ち上がっています。皆さんご存じのとおり。そして、そこでは、専門家が委員として加わっておりますので、かなり具体的な提案がされていくと思うんです。ここは専門家の意見がどんどん入っていくんだと思うんです。

それに対して、ここでは、本当に市民らしい、市民の立場から見たご意見を出された方が、この会議らしいものになるんじゃないかと私は思うんですけれども、どうでしょうか。そんなふうに私は感じています。

○西村 今のことにも関係していることなんですけれども、余り勉強しなくてお言葉を返すのもためられるのですが、行・財政検討委員会の報告書は参考書扱いということは、初めのうちにちょっと話が出たのは、これはやっぱり持続可能な市政という視点でつくられているんだと思うんです。私たちがやっているのは、先ほどから出ている、個人生活の充実といったようなことから出発する、あるいは持続可能な地域社会ということから出発する、そこが行・財政検討委員会と私たちの違いだというふうに思っておりますし、今のことは多分今の菊池さんのお話にもつながると思うんですね。そこはとても大事なところだと私は思っておりますね。だから、市民の視点からということに絶えず戻しつつというか。

○菊池 そうですね。私もそう思います。

○須藤 今いろいろ聞いていまして、この大項目から小項目、細項目とございますが、市の方で、この中でこれはもう検討する余地はないと。先ほど先生が言った、執行者ですか、検討委員会があれば、こういう問題は出てこないと思うんです。そうすると、今の段階で市の方からご説明受けて、これはもう、まあ満足いくんじゃないかと。そうしたら、ほかの項目をもう少しきちっと立ち上げた方が、何か密度の濃い、市民会議らしいものをつくられたらいいんじゃないかと私は思うんですけどね。

○菊池 おっしゃるとおりだと思うんです。私が申し上げるのもなんですけど、きょう、市



の方から配られた資料、これは恐らく、どうぞごらんになってくださいということだと思うんですね。そうすると、皆さんから出たご提案が、既に市の方では実行済みですよという部分もいろいろあるかと思うんです。その整理は、これを見ていただくと同時に、次回以降、きょう新たに出たご提案が全部表になります。その後で、表の中で、例えばこれは我々がここで議論しても、民間企業の話であって、我々がどういった話にならないよというものも見られます。そういったものを整理していったり、既にこれは実行済みですよという部分もありますから、そういう整理は次回以降やらなきゃならない作業じゃないでしょうかね。もちろん、市当局からもご説明いただいて、これはもう済んでいるし、あるいはこれはもう議会で決まったことでどうしようもありませんと、これを覆すのであれば、それこそ住民の直接投票、署名運動でもしない限り無理ですとか何とか、そんな話になってきちゃうかと思います。

○安田 ちょっと今のことで関連して質問したいんですが、「検討・研究中」というのは、もう手をつけているよということで、実施過程に入っていると解釈していいんですか。「未着手」ははっきりしているからいいんですけどね。「実施中」というのはいいですよ。

○山本企画調整課長 これはもうそれぞれ濃淡さまざまございまして、本当にとぼ口のところからかなり詰まっているところまであるかと思います。どこまで進んでいるかというのは、事業概要実施状況等説明欄のところで見ていただくくらいか。そこでさらにもし、それ以上どこまで具体的な話ということであれば、ご質問いただいた点をお答えする以外にないかなと思っております。

○安田 分類するとき、検討中というのはどっちに入るのかなと思って。

○山本企画調整課長 検討中というのは、実施はしてないということです。

○安田 してないというところに入れていいんですか。でも、意思があるということね。

○山本企画調整課長 そういうことございまして。

○糸井 それはわかんないね。検討中というのはわかんないですよ。

○安田 やらない場合もある？

○糸井 むしろそっちの方が多んじゃないですか。

○藤本 ◎がついて完成というのがあって、その後にもまた実行というのがある。これは、要するにメンテナンスをやるという話でしょうか。

○山本企画調整課長 計画の見直しなんかの場合はそうです。例えば1ページの高齢者福祉課、介護保険課というようなところにあるものについては、17年度に計画を策定して、

20年度に、完了の○のつけ方がよくないかもしれませんが、また改定するという意味でございませぬ。

○小島 たびたびで恐縮しちゃうんですけども、酒井さんのこの提案書を見て、私ははっと気づいたというか、非常にいいことをおっしゃっているなと思うんですけど、もう少し具体的に私は、ちょっと僭越ながら提案なんですけれども、さっきは、実際行政改革をするのは職員の方だと私は申し上げました。結局その人たちと、それから市民らしい市民の立場の意見とが、結局同じ目標を共有しないと市政がうまくいかないんだと私は思うんですね。経営と同じなんです。

ですから、いつもここにたくさんの方のおいでになっているんですけども、ほかの部門の環境とか福祉とか教育はよくわかりませんが、どっちかという行政、財政という、そういう部門よりも、もっと本当に大蔵省などの、役人の方と交渉するくらいの議論が必要だと思います。これは私の希望ですけども、ただここに座っておられてずっとじっと聞いておられるんじゃないかと、この中に3人くらい入って、ちょっと質問したり、こういうことをあなたたちはどう思いますかと、課長さん、部長さんたちに社員が質問するようなものですね。そういうことがあった方がもっと盛り上がり、我々も勉強会になるし、さっきおっしゃったような、本当の勉強の、市民参加の交流が進むというような気がするんですけどね。だめですかね。

○糸井 それは大いに賛成ですけど、ただここは勉強の場ではないから。

○小島 いや、そういう意味じゃないんですよ。結果が勉強と言っているんです。

○糸井 だから、職員が入って意見を言うのは僕はいいと思うんですよ。大いにやった方がいいと思うんです。結果が勉強になるのはいいけども、目的そのものが勉強ではないんだから、そこははっきり認識してもらわなきゃだめです。

○小島 直接出ておられるんですから、これの人件費も大変なことですよ、この人たちの。と私は思います。

○糸井 僕も大賛成ですよ、それは。

○小島 行政、財政だから言うんですけども、行・財政だから、ちょっとこれは大変なんですよ。

○菊池 というご意見、大方の皆さん、反対される方は余りいらっしやらないかと思うんですけども。市の方から。

○高橋財務部長 私の方から一言補足させていただきますけれども、どうしてこのような

形で我々は後ろに控えているのかというお考え、皆さんはお持ちだと思うんですが、実は従来の武蔵野市のこういう委員会というのは、市民の方に入っていた場合なんかでも、事務局として市の職員がいまして、そして市民委員や一般の委員の方がもう片方に控えていられるということで、基本的には市の事務局と委員との議論のやりとりというのが通常の形態だったんですね。ですから、場合によっては、先ほど酒井さんがおっしゃったように、市の方が情報はいっぱい持っているわけですから、行政の方に誘導させてということも多かったわけです。

ただ、今回はそうじゃなくて、それはいけないだろうという反省に立ちまして、できれば市民同士の中で議論していただいて、我々は、質問に対してはお答えいたしますという、そういうスタンスです。ある意味、この市民会議は武蔵野市にとっては初めてのスタンスの委員会なわけですね。そういうことをちょっとご理解いただきたいと思います。

○小島 これは逆にいうとこちらからの提案ですから、これが意識改革の問題。立場はわかりますね。

○高橋財務部長 私が申し上げたのは、行政と市民の皆さんが議論したのでは今までと同じ形になってしまう、そういう危惧があるものですから。

○小島 そうしたらだめですよ。ちゃんとそれも意識改革しないと、我々も。単に聞けばいいんだ、これはさっき糸井さんがいったように勉強会、いけないと思う。だけど、皆さんもどう思いますかというときがあるんですよ、我々。皆さん、やる気ありますかということもあるんですよ。皆さん、やる気がないんだったら、ここにいたってしようがないですよ。それが菊池先生のおっしゃったガス抜きなんですよ。あれ、嫌な言葉なんですよ。

○糸井 そう、ガス抜きになってはまずいが1つですよ。

それからもう1つ申し上げたいのは、今図らずも出たけれども、市の方が必ずしも優位な情報を持っているという時代ではないんですよ。市民の方がもっと正確な情報を持っている場合も多いんですよ、最近。そこは認識を変えてもらわないとだめなんですよ。だから、議論に入ってもらうのも大事なんですよ。

○菊池 要するに市の基本の姿勢は、今部長さんから出たことと同じでそのとおりだと思うんですね。ですから、それだけ市当局が真の意味の市民参加ということをきちんと意識されて、こうした委員会をつくってくださったということ、これは感謝しなければいけないし、活用すべきですね。ただ、こちらに大勢の方が控えてくださっていますので、なる

べく我々、質問して答えを引き出すということは、結構なんじゃないでしょうか。

○内山 今のお話についての意見なんですけど、私はこの20人の市民会議の中に職員の方が同じ市民委員のように入って議論するというのは、それはちょっとどうかなというふう  
に疑問に思いましたので、手を挙げたんです。

それは今、市の職員の方がお話しになったとおりで、菊池先生がまとめてくださったと  
おりなんですけど、今回の100人規模の市民参加方式での調整計画の策定の大きな意味は、  
我々市民同士が何を考えているかということを直接議論できる、そういう機会が得られた  
ということが画期的なんだと思っています。私たちがブレインストーミングとかでいろい  
ろ話していることも、職員の人にしてみれば、内心、そんなことはもうやっているよとい  
うこともあるでしょうし、それは個別計画で進んでいるよということも、たくさんたくさ  
ん胸の中にありながらも黙って黒子に徹していらして、それで残業したり早出したりして  
作業しているということは容易に想像できるわけなんですけど、そういうふうな、あくまで  
も市民を主役にして進めてくださっているわけですから、今のところはこの形態で私たち  
は進んでいけばいいのではないかなと思います。

どうしてもこれから作業的に日程も時間も詰まってくれば、事務方のやらなければいけ  
ない部分も増えますでしょうし、力を借りなきゃいけないこともあるかもしれませんけれ  
ども、当面は市民で議論するというのを進めたいと思いましたが、今提案しました。

○菊池 時間も迫ってまいりました。まだご意見をおっしゃってない方、どうぞ。

○島田 私は今までの論議とちょっと違うんですけれども、先ほど澤田さんがまとめられ  
て、「都市基盤」が少ない、たかだか1件だというふうに言われたんですけれども、それを  
提案した私としてちょっと言わせていただきたいんですけど、武蔵野市って、どちらか  
という今人口も停滞ぎみなんです。先ほどお話があったように、少子化が進んでいる。  
そういうものをどう打開していくかという観点で、私はいろいろ提案をしたつもりなん  
です。

例えば、駅前に保育園をつくろう。若い人が入りやすいようにどうするか。皆さん、武  
蔵野の中で仕事をしている人は少ない。よそへ出ている人が多い。となると、駅というも  
のをどう使うかというのが1つあるんじゃないか。見ると、駅は今、3つしかないんです。  
武蔵野市の地価にしても、ぐっと下がりますよね、北の方へ行きますと。じゃ、そこをも  
う少し活性化するのにどうするか。これは私は何も武蔵野だけじゃないと思います。杉並  
も同じだと思います。そういうものを全体使って交通をどうしていくかというのを考える

ように訴えていていただきたい。すべて武蔵野市の金でというつもりはないんですけれども、何かそんな面で武蔵野市の財政が維持できる、さらに人が集まってくる、人の交代もできてくる、そんなような武蔵野になってほしいなという思いでこれを出させていただいていますので。だから、「都市基盤」が少ないというだけじゃないんじゃないかなという事で、あえて言わせていただきました。

○澤田 これ、またテクニックの話になるんですけれども、ここに出てきたものというのは、皆さんが2票入れても1つの項目でしかないわけですね。ところが、もしかすると皆さん、10票が1つのところに入るかもしれない。そうすると、その重みづけというのは全然違って来るわけです。そういう優先順位づけというか重みづけが、まだこれには表現されてない。

そうすると、1人大体、先ほど3つとおっしゃいました、小島さん。それを、例えば各自に5票、そのうち一番やりたいというものに対して3票、2番目は2票、次は1票という形で重みづけをしてみたら、どこにどういうふうになっていくかということが見えてくると思うんですよ。それがあある意味、この中の総論というか、行きたい方向という形になると思うんですね。

○菊池 今のご提案は、ポイント投票制度というやり方ですね。1つのご提案ですから。

○藤本 ただそれは、コストがわからないと出せない問題があります。つまり、幾らよさそうでも、物すごく高かったら、やっぱりやめようということになるから。

○澤田 ただ、そういうのは、恐らく賢明な皆様は、これは金がかかるから多分だめだろうということで票が少なくなるんじゃないか。というか、そういう具体的な話の細項目に対しては、票は入れるべきじゃないと思うんですね。小項目、中項目ですか、その中から、いや、私はこれだというものに対してだけ入れる。ある程度抽象的になっているので、この事業をやりたいという具体的な話は、細項目はないんで、既にそういうことはなくなるのかなと思うんですけど。

○菊池 ありがとうございます。極めて具体的にご提案、ポイント制度で強弱つけたらどうかというご提案でございます。

これは次回の会議をどう進めるかでまたお諮りいたしますけれども、全体で、澤田さんにつくっていただいたこの表で、要するに行・財政で、特に財政に関して言いますと、予算には限りがありますから、削減すべきだ、あるいは予算を増やすべきだというご議論は、結局優先順位をどう今までと変えるかという議論になっていくわけですね。ですから、政

策理念のところ「事業優先順位決め」というのが出てきていますけれども、これは財政政策ということを考えますと、基本中の基本なんです。予算が限られているので、結局、じゃここを下げてこっちを上げよう、こういう提案に具体的にはなっていくわけですね。

澤田さんのご意見はそういうことと同じでして、ここで出たたくさん意見の中から、ポイント制、1人5点を与えて、一番多いものから3、2、1点というようにやったらどうかというご提案でした。この辺、次回、まずは、きょう出た新しい提案を含めて表をつくっていただきます。それから、この整理の仕方も、目的、手段という関係で整理できるかどうか、お考えいただいたと。

その上で、次回どうしようかということなんですけれども、12月にあと2回ですね。そこで、次回は、もちろんブレインストーミングなんですけれども、これとこれは1つになりますね、これとこれは一番小さな手段を言っているけれども、もうちょっと上の目的でいうとこういう言い方に変えていいですねと、こういうような整理を同時にしていったら、多少なりともすっきりするのかなと。私もその作業はこれをもとにやらせていただこうと思っていますけれども、そんなような次回の進め方、どうでしょうか。

それから、今の澤田さんのせっかくのご提案ですので、5点ポイント制度というのはどうでしょう。ちょっと議論してみてください。

○糸井 たくさんありますから、全部やるのも1つの手だし、ポイント制で絞るのも1つの手だと思うんですけれども、ただ、きょういただいた表の小項目と細項目が合っていない部分が物すごく多いですね。これはちょっと再整理していただかないと、合わないと思うんです。ちょっと見ただけでも、例えば1番、6番、9番、10番、11、12、13、14、15、16、17、18、19、27、32、34、35、36、37、38、39、40、55、56、59、61番目、上からずっと番号をつけますとね。そこが合っていないと思うんですよ。ちょっと皆さん、見ていただいて、小項目と細項目。

○島田 対とは私は理解しなかったです。小項目は小項目、細項目は細項目、並べただけというふうに私は理解しました。

○糸井 でも、一応これ、分野ごとにやってあって、合わせてあるやつもあるでしょう。

○島田 分野がどこにあるかということで、たまたま合ったんです。じゃないかなと思いますよ。

○糸井 だけど、こういう表は、大・中・小・細と流れをもってまとめるというのが通常の筋ですよ。だから、そうやっていただくとありがたいですね、もしそうなら。

○菊池 それでは、時間が来ました。次回、この表の整理をした上で、ポイント制を考える、とりあえずそんなような段取りでいかがでしょうか。

○内山 それにつけ加えてお願いしたいんですが、ポイント制というのも、そのうちに採用されてもいいのかなと思いますが、今おっしゃったように、分類上にまだまだ作業の…

○菊池 だから、それを最初にやります。

○内山 それと、K J法で言いますと、皆さんで意見を出し合うだけでは半端であって、それを出した人たちがどういうふうに解決していくかという議論をしながら、それを分類して、そして目的のためにどういうものを用意し、どういうものを省いたらいいかということ議論するわけですから、20人でそれをやっていくのはちょっと難しいので、例えばグループに分けてその作業をやるとか、出ただけでちょっととまっているので、その先の完結編までやらないといけないんじゃないかなと思うので、その辺も含めて次回ということで考えていただきたいと思います。ポイント制になる前に。

○菊池 私が申し上げたのは舌足らずだったかもしれませんが。ポイント制をやる前に、表の整理と申し上げたときに、提案者の意図が周りのほかの委員の皆さんが十分わからない、あるいは質問したいという点がいっぱいあると思うんですよ。そういうのはもちろんやっていくわけです。そして、みんなで共通理解が成り立った上で、じゃ、ポイント制、そういう議論ですから、今おっしゃったような疑問がある場合には出していただいて、ご提案いただいてよろしいんだと思います。

ということで、とりあえずはよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

### 3 その他

○菊池 事務局から何かございましたら。

○名古屋財政課長 今回、皆様のところへ第5回の議事録を配布いたしました。こちらの方は来週木曜日、7日までに、何かありましたら、また財政課の方にメール、ファクスでお願いいたします。

今回は、先ほどもお話に出ておりましたが、11日月曜日午後7時から、会場は8階の802会議室です。よろしく申し上げます。

○菊池 それでは、次回、11日月曜日ですけれども、よろしくお願ひいたしたいと思いま

す。

きょうは長時間どうもありがとうございました。

午後 4 時 7 分 閉会